

## このようなことが話し合われました

●委員長 ●委員 ●事務局

- 雪裡川の状況把握については、踏査した程度の状態であり、久著呂川の対策を参考に案として提示したものである。今後より詳細に整理する必要があると思う。
- 説明された雪裡川の河床低下の部分に関しては、全く反論がなく、むしろ必要なことだと思っている。雪裡川下流では、久著呂川下流と同様なことが起きており、対策が必要になると思われる所以、そこは是非、調査を行っていただきたいと思う。
- いただいた意見を踏まえ、検討していきたいと思う。
- 今後、どのような予定で調査するのか。
- 第19回土砂流入小委員会でいただいた意見等を踏まえ、事業化に向けてどのように進めていくのか北海道の本庁と打合せを行っていきたいと思う。但し、今回調査は雪裡川の踏査のみで、今後、一步踏み込んだ調査に移行していきたいと考えている。
- 雪裡川の河床低下対策などは、結構急ぐ感じなのか。
- 久著呂川のように河床低下が進行し、切迫した状況というまでには至ってなく、時間的にもう少し余裕があると考えている。
- 次回の土砂流入小委員会に向けて、より詳細な調査という感じか。
- そのようにしていきたいと思っている。
- 1年程度かけて調査を行っていく。
- 第19回土砂流入小委員会資料27ページの土砂流入対策の対象河川について、釧路川と大きな支流を対象として、今回、雪裡川を取り上げることに対して全く異存はない。もし可能であれば、ツルハシナイ川あるいはチルワツナイ川も取り上げていただきたい。湿原の一番奥側に流入し、流域面積もあまり大きくない川であり、人工的な河川改修も何も施されてなく、非常に自然度の高い川ではある。昔見た状況では、普段は何ら問題ないが、大雨や、大きな融雪出水時には、相当な土砂を運んでいる川だと思った。
- チルワツナイ川の流れ出た先が、キラコタン岬、宮島岬など湿原の一番奥まったところで、湿原としても非常に重要な箇所だと思う。チルワツナイ川は小さな川であるが、土砂流入対策河川として取り上げるまでいかなくとも、モニタリングにより監視する必要があると思っている。
- 鶴居村管理の河川であると思うので、難しいお願いもできないと思っている。チルワツナイ川流域の上流側には村営牧場があり、そこからの土砂流入もないとは言えないと思うので、釧路湿原の一番心臓部に流れ込む川として、可能であれば現在の状況などの検討や、チェック、モニタリングを行っていただけないのかと感じていた。
- 標茶町に住んでいるが、対象河川の中に、塘路湖に流入している河川であるアレキナイ川が対象に入っている。塘路湖が砂の堆積により埋まってきており、現在、漁協なども困っている。釧路湿原には塘路湖も含まれるので、塘路湖という名前が挙がってきていないことから、全体の見直しが必要と思うが考えてほしい。
- 塘路湖への土砂流入が問題になっていると聞いたことはある。アレキナイ川流域で農地造成も盛んだった時期がある。その際、土砂が大量に塘路湖に入ったということもあり、また、釧路川本川からの逆流による土砂流入もある。塘路湖の環境を考えるのであれば、出入りする川のことを考えないといけない。その意見に賛成である。
- 地域産業についても、釧路湿原自然再生全体構想の10年間の見直しの項目に入っている。標茶町の産業に塘路湖漁協も入っており、塘路湖で魚をとつて生計を立てている人もいる。地域の主産業である一次産業が成り立たなくなってくるような気がする。
- 今後の調査は、今指摘された意見も踏まえながら進めるようお願いしたい。
- 関係機関と調整しながら進めていきたい。

### 第19回 土砂流入小委員会【出席者名簿(敬称略、五十音順)】 ◎委員長 ○委員長代理

●個人	●団体	●関係行政機関
井上 京 (北海道大学大学院 農学研究院 教授)	公益財団法人 北海道環境財団 (安田 智子)	独立行政法人 土木研究所 寒地土木研究所 (釧路河川事務所長/小池 俊夫)
岡田 操	標茶西地区農地・水保全隊 (隊長/佐久間 三男)	水環境保全チーム (主任研究員/柏谷 和久)
清水 康行○ (北海道大学大学院 工学研究院 環境フィールド 工学部門 水圈環境工学分野 教授)	特定非営利活動法人 タンナショウ保護研究グループ (井上 雅子)	北海道 釧路総合振興局釧路建設管理部 (治水課長/山谷 公二)
新庄 興 (北海道大学 名誉教授)		鶴居村 産業振興課 (産業振興課長/伊藤 彰夫)

### 資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、  
釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。  
<http://www.kushiro.pref.hokkaido.lg.jp/kkk/dosyaryunyu.htm>

### ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を  
募集しています。電話・FAXにて事務局まで御連絡ください。

# 釧路湿原 自然再生協議会

# 土砂流入小委員会

## ニュースレター

No. 19

発行日:平成27年4月24日

平成27年3月19日(木)「第19回土砂流入小委員会」が開催されました。

### ■開催概要

「第19回土砂流入小委員会」が平成27年3月19日(木)に開催され、構成員35名のうち、12名(個人5名、団体4団体、関係行政機関3機関)が出席しました。

会議の冒頭で、第7期土砂流入小委員会の委員長の選出が行われ、第6期に引き続き清水委員が委員長に、長澤委員が委員長代理に選任されました。

その後は清水委員長の進行により議事が進み、「久著呂川における土砂流入対策」「国営総合農地防災事業における土砂流入対策」「釧路湿原における土砂流入対策」について、事務局からの報告及びそれに対する協議・検討が行われました。



## 1 久著呂川における土砂流入対策についてー河道の安定化対策ー

### ●河道拡幅区間の状況

・河床に砂礫が堆積し始めています。水際部は一部側方侵食しています。



### —今後の課題—

・河川用地や土地利用を考慮して側方侵食を防止する対策を検討します。

### ●対策を実施していない区間の状況

・河床・河岸に凝灰岩が露出し、河床低下、河岸侵食が進行しています。単調な水辺環境となっています。



### —今後の課題—

・継続的にモニタリング(横断測量)を実施し、河床低下・河岸侵食の状況を把握します。

・河川用地や土地利用を考慮して引き続き対策を検討します。

釧路湿原自然再生協議会運営事務局  
TEL (0154) 23-1353 FAX (0154) 24-6839



釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を  
募集しています。電話・FAXにて事務局まで御連絡ください。

## 2 久著呂川における土砂流入対策について－河川沿いの土砂調整地－

### 河川沿いの土砂調整地の目標

#### ■土砂流入対策の目標

粗粒土砂については、湿原への土砂流入が少なかったと考えられる河川が蛇行していた頃の負荷量に戻すこととし、現状から約4割軽減することを目標としています。

<釧路湿原の河川環境保全に関する提言より>

#### ■粗粒土砂の目標値

対策前の釧路湿原への土砂流入量は、 $1,280\text{m}^3/\text{年}$ であるため、 $1,280\text{m}^3/\text{年}$ の4割( $510 = 1280 \times 0.4$ )を粗粒土砂の軽減の目標値としています。

対策前： $1,280\text{m}^3/\text{年}$

対策後： $770\text{m}^3/\text{年}$  ( $\downarrow 510\text{m}^3/\text{年}$ )

<土砂流入対策実施計画(久著呂川)より>

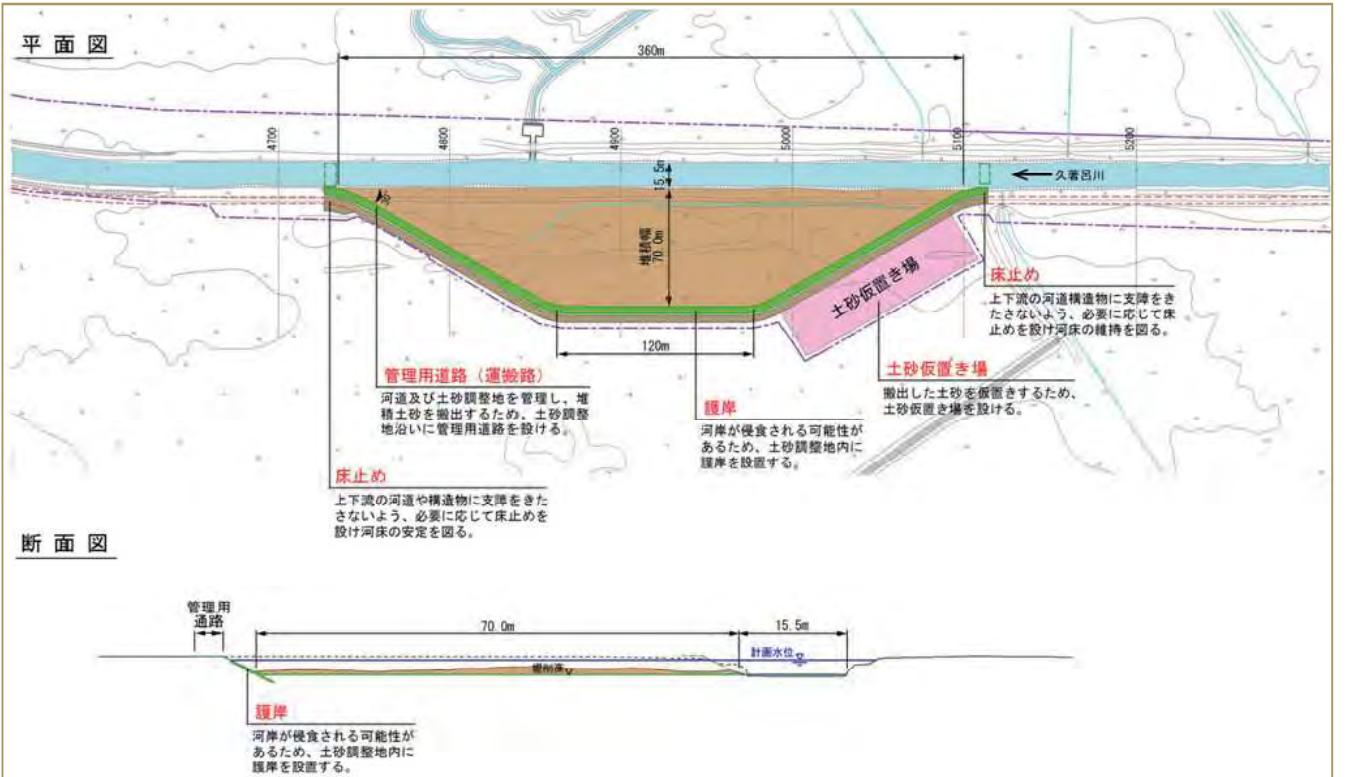
#### ■河川沿いの土砂調整地の目標値

中流域の河床低下区間における河道の安定化対策により粗粒土砂を $70\text{m}^3/\text{年}$ 軽減することが期待できる。そのため、河川沿いの土砂調整地では、 $440\text{m}^3/\text{年}$ (= $510 - 70$ )を粗粒土砂の軽減の目標値としています。

河道の安定化対策： $70\text{m}^3/\text{年}$   
河川沿いの土砂調整地： $440\text{m}^3/\text{年}$

<土砂流入対策実施計画(久著呂川)より>

### 河川沿いの土砂調整地の概要



●了解した。久著呂川の湿原流入部は、国管理区間に及ぼす影響などの検討も行っているのか。

●河道掘削を行っているという報告があったが、それより具体的には検討していない。この後で説明する雪り上流側の北海道管理区間でも今後河道掘削を実施する。雪裡川の下流側では、土砂が堆積しそこにタンチョウが生息しているが、キツネ等の動物が侵入しやすい状況になっている。その区間の堆積土砂の除去要請も

●はい。

●久著呂川と同様な河道掘削を他の河川でも行っており、今後、協議を行いながら決めていくよう思っている。いった場合、これはタンチョウ専門家の意見も伺いたる。だが、タンチョウの生息等に土砂上げが影響を及ぼす可能性もあるのではないかと思う。それがタンチョウ

### このようなことが話し合わされました

●委員長 ●委員 ●事務局

- 第19回土砂流入小委員会資料12ページの土砂調整地に伴う河道掘削について、当面、土砂調整地は設置せずに久著呂川下流域の河道に堆積した土砂を掘削するという方針を今日提案されたと理解してよろしいか。
- そのような意味ではなく、土砂調整地は早ければ平成27年度から実施していきたいと考えている。この事業自体は着手してから施設が完成した状態ではなく、今も土砂が流出し、下流側に堆積している状況となっている。そのため、土砂調整地を補完する意味で河道掘削も併せて実施したいと提案させていただいた。土砂調整地を実施しないということではなく、土砂調整地が完成するまでに流出した土砂を取り除くというイメージで考えている。

### このようなことが話し合わされました

●委員長 ●委員 ●事務局

- 現状としては、毎回同じ回答になるが、交付金制度の活用と関係機関の協力を仰ぎたいという回答である。
- 全体的に調査すれば分かると思うが、林野の関係も考慮する必要があるのではないか。
- 林野からも相当土砂が流出しているのか。
- 間違いなく出ていると思われる。
- 土砂流入小委員会には林野関係の方は入っていない。
- 現事務局のメンバーには入っていない。
- 今まで土砂流出の問題があることを林野関係の方と話してはいないのか。
- 林野側とまだ具体的な打合せはしたことがない。
- 今後、林野側も土砂流入小委員会に加入していただき、一緒に議論していく方向で進められるのではないか。
- まずは林野側と情報交換を行い、一緒に議論していく方向で進めていくことを考えていただきたい。
- 当小委員会で、いきなり林野側への費用分担をお願いするということにはならないが、まずは林野側も一緒に議論していくところから始めるようにしていかなければよいと思う。引き続き何かよい方法を探っていただきたい。よろしくお願いしたい。
- 確かに久著呂川の土砂流入抑制対策は非常によく出来た成功事例として、他にもっとPRするなど、成功した対策を強調していけばよいと思う。他の河川でも何らかの問題を抱えながら対策を取り組んでいるが、久著呂川に限っては成功した。やはり最初に整備した落差工がよかったのではないか。
- 胸を張ってPRしたらよいと思う。

## 5 釧路湿原における土砂流入対策について

### 土砂流入対策河川の選定

釧路湿原への年間の土砂流入量は、雪裡川は2位と土砂流入量が多い。また、雪裡川は流域面積が1位で流砂量、河床低下要因のひとつとなる流量が大きい。河道状況については、雪裡川において、河床低下による護岸や床止工の変状が見られます。今後さらなる土砂の流出が予想され、橋梁の安全性低下、河岸侵食による土地利用への影響が考えられ、久著呂川と類似しており優先度の高い河川と考えられます。さらに、下流において排水不良に対する対策が求められています。

上記のことから、久著呂川の次に流域対策を実施する河川は「雪裡川」に選定します。

### 雪裡川における課題

- | 【現状】              | 【課題】                           |
|-------------------|--------------------------------|
| ・河岸侵食・河床低下による土砂流出 | → ①釧路湿原への影響                    |
| ・護岸の変形・変状         | → ②護岸機能の低下<br>③河岸侵食による土地利用への影響 |
| ・床止工の変形・変状        | → ④橋梁の安全性低下<br>⑤魚類の遡上等への影響     |

### このようなことが話し合わされました

●委員長 ●委員 ●事務局

- 第19回土砂流入小委員会資料の最後に今後の課題が掲載されている。関係機関との調整ということになると思うが、久著呂川と同様に、雪裡川においても排水路合流部沈砂池のチェックを行っていくのか。鶴居第2地区は整備が完了している。このような農業側が整備した沈砂池の機能の評価はどのように考えていくのか。
- 具体的に雪裡川の沈砂池についての整理が出来ていない。雪裡川の合流部に沈砂池が整備されていることは、踏査段階で分かっていた。雪裡川本川が土砂堆積し、背水の影響により沈砂池はかなりの水深があるような状況になっている。それをどのように評価していくのか、今後整理が必要になると思っている。
- 本日、雪裡川についての具体的な説明はなかったが、雪裡川下流端から更に湿原側の状況は、雪裡川から土砂が流出して湿原に堆積し、湿原の乾燥化など何らかの影響を及ぼしているのか。
- 実際に調査したコンサルタントに確認したが、久著呂川と同様な状況である。
- 雪裡川からある程度土砂が流出し、それが湿原の乾燥化につながっているような感じなので、出来る限り土砂流入を防止したいという感じの河川であるということ。
- そのように考えている。
- 雪裡川下流で乾燥化が進行していると言われたが、ここは過湿化していると思う。従来、幌呂川と雪裡川は、違う水系の河川で、湿原の下流部で釧路川に合流していたが、直轄明渠排水路事業で幌呂川と雪裡川が湿原流入部で合流して一本になっている。その水が合流後に溢れ出しているような状況であることから、ここは過湿化の問題が湿原の中で起きているのではないかと思う。湿原の中で何が起きているか、殆んど実態が把握されてない場所であると思われる所以、それについて見解を述べるには、時期尚早であり、あまり言えない状況だと思う。第19回土砂流入小委員会資料30ページに記載されている対象河川選定の一覧で、雪裡川最下流に土砂が堆積し、排水不良を起こしているということが、幌呂川下流部にも及んでいるのではないかと思う。これは久著呂川の最下流部と同じ状況にあることから、幌呂川合流部の直上流辺りで何らかの対策が必要になるのではないか。雪裡川、幌呂川の最下流部と、合流し直線化された箇所で何らかの対策を行うことは考えられていないのか。